

次号予告

2018年10月号 vol.4 no.3

特集

恐れず恐れよ!

骨転移診療 超実践ガイド

企画:大島和也(大阪国際がんセンター 整形外科(骨軟部腫瘍科))

天羽健太郎(聖路加国際病院 整形外科 足の外科診療担当)

医療の進歩により、少しずつがん患者のOSは延長され、がんサバイバーは500万人を超えとも言われます。そのようななかで、避けられなくなってきたのが「骨転移」の存在です。痛みによるQOLの低下のみならず、病的骨折のリスクなど、がんの治療継続において極めて大きな問題となります。

しかし、骨転移には多くの医療者が共通して抱えている問題があります。それは、「骨転移は誰が診ればよいのか」という、診療の前提とも言える課題です。

「まず、絶対安静にさせておけば安心だ。でも本当に今運動制限は必要なのだろうか……?」と考える医師、「この患者、本当は運動できる可能性があるのに、いつ、誰に伝えたらいいのだろう」と悩むリハビリテーションスタッフ、「担当中に骨折してしまったらどうしよう……」と不安に思う看護師。骨転移はその恐ろしさ以上に過剰反応され、安静を強いられている状況にあるとも言えるのかもしれない。

そこで本誌では、「恐れず恐れよ! 骨転移診療 超実践ガイド」と題し、骨転移診療の現場ですぐに使える特集を企画しました。さまざまな職種の悩みを踏まえて、本企画をまとめあげるのは「腫瘍をみることができる整形外科医」2名です。運動器のプロフェッショナルであり、加えてがん診療にも精通した整形外科医による視点は、あなたの不安と悩みを解消する一助になることでしょう!

そもそも病的骨折を起こさせない、早期発見と重症化回避の視点から始まり、安静度をどう考えればよいのかという骨転移のアセスメント、「病的骨折の(リスク)フェーズ別」症状緩和のポイント、リハビリテーション、社会的資源にいたるまで、骨転移をトータルにみるためのエッセンスを、実践的にまとめあげます。

カンファレンス取材のお願い

あなたの施設のカンファレンスを『Cancer Board Square』に掲載しませんか?
本誌では、がんに関わるカンファレンスの取材先を募集しております。

- ・ Cancer Board
- ・ 診療科横断型のグランドカンファレンス
- ・ Death Conference
- ・ CPC
- ・ ナースによる振り返りカンファレンス
- ・ 若手の症例検討会

など、公開可能な活発なディスカッションの場がございましたら、編集室までぜひご連絡ください。

03-3817-5714(編集室直通)

cbs@igaku-shoin.co.jp

*これら特集テーマについては変更の可能性がありますことをご了承ください。